

(2022年5月号掲載)

## 群馬県における乗合バス事業の課題と方向性

群馬経済研究所主席研究員 伊勢和広

### 調査のポイント

高齢化の進展で、交通弱者の公共交通インフラとしての乗合バスの重要性は一層増している一方、実際の利用状況は低迷している。県内乗合バス事業者へのヒアリング等を通じて、乗合バスを維持するための課題と今後の方向性を探る。

### 要約

- 本県における乗合バス事業の大きな課題として、①利用者低迷による赤字経営の恒常化、②経営を維持するためには大きな財政負担を伴うこと、③恒常的なドライバー不足、が挙げられる。
- 今後の方向性としては、行政、事業者、県民によるさらなる協働が不可欠である。県民全体が「公共交通をどう維持していくのか」を自らの問題として真剣に考えるべき時期が来ている。また、将来的には「地域の公共交通は、国・地公体の責任で運営する」という社会へシフトする必要もあるかもしれない。